

社会政策学会 Newsletter

◇学会本部 立教大学経済学部 菅沼隆研究室
URL : <https://jasps.org> TEL : 03-3985-4529 E-mail : suganuma@rikkyo.ac.jp
◇編集・発行 菅沼隆 (代表幹事) 吉村臨兵・森詩恵 (Newsletter 担当幹事) 中尾友紀 (事務局長)
◇事務センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2 丁目 39-2 大住ビル 401
(株)ガリレオ 学会業務情報化センター内 社会政策学会事務センター
TEL : 03-5981-9824 FAX : 03-5981-9852 E-mail : g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp

【目次】

1. 第 151 回 (2025 年度秋季) 大会の開催予告および報告募集
2. 第 150 回 (2025 年度春季) 大会総会報告
3. 第 150 回 (2025 年度春季) 大会若手研究者優秀賞選考報告
4. 2024-2026 年 期 幹 事 会 報 告
5. 役員選挙のお知らせ
6. 承認された新入会員
7. 顧問の逝去

1. 第151回(2025年度秋季)大会の開催予告および報告募集

開催日: 2025 年 10 月 25 日 (土) ~ 26 日 (日)
開催地: 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
共通論題: 介護保険制度 25 年の検証と評価
座長

平岡公一会員 (東京通信大学)

小田巻友子会員 (立命館大学)

報告者

森詩恵会員 (大阪経済大学)

武田公子会員 (金沢大学名誉教授)

孔栄鍾会員 (佛教大学)

斉藤弥生会員 (大阪大学)

※共通論題は 25 日 (土) に開催予定です。

自由論題報告とテーマ別分科会の募集は、6 月 9 日 (月) ~ 7 月 4 日 (金) を予定しております。募集の詳細については学会ホームページでお知らせいたします。

(垣田裕介)

2. 第 150 回 (2025 年度春季) 大会総会報告

日時: 2025 年 5 月 17 日 (土) 17:05 ~ 18:05

会場: 東京都立大学南大沢キャンパス 6-110 教室

議題:

1) 報告: 学会賞発表・表彰の秋季大会への変更について

2) 会則・規程その他の改正・新設について

1. 社会政策学会 会則 第 4 章第 26 条

2. 社会政策学会 会則 第 5 章第 37 条ならびに第 38 条

3. 新設: 若手研究者支援委員会規程

4. 社会政策学会誌執筆要領

5. 倫理綱領 第 8 条

3) 2024 年度活動報告

1. 現勢報告

2. 活動報告

4) 2024 年度決算・監査について

5) 2025 年度活動方針

6) 2025 年度予算

7) 報告: 役員選挙予告・選挙管理委員委嘱

8) 大会若手研究者優秀賞発表・表彰

9) 永年会員となられた会員について

10) 日本学術会議法案に関する総会決議について

11) 次回大会開催校からのご挨拶

*総会の議案書は、<https://jasps.org/draft-bill.html> に保存されています。

1) 報告: 学会賞発表・表彰の秋季大会への変更について

学会賞の発表及び表彰を秋季大会時の総会で行う

こととしました。

2) 会則・規程その他の改正・新設について

- 1. 会則第4章第26条（総会の開催）を改正し、秋季大会時の臨時総会を総会とする案が承認されました。
 - 2. 会則第5章第37条ならびに第38条（幹事会業務分担委員会）に、若手研究者支援委員会を加筆する案が承認されました。
 - 3. 若手研究者支援委員会規程を新設する案が承認されました。
 - 4. 社会政策学会誌執筆要領を改訂する案が承認されました。これによって、「6 参考文献リスト」の「(2) その他」に、「(c) 英語文献の表題、雑誌名、書名、出版社名等は、文頭を大文字とし、それ以外では冠詞、前置詞、接続詞を除くすべての単語の1文字目を大文字とする。」が追加されました。
 - 5. 倫理綱領第8条に自己剽窃について追記する案は、再検討することとなりました。
- 3) 2024 年度活動報告について、報告の通り承認されました。
- 4) 2024 年度決算・監査報告について、報告の通り承認されました。
- 5) 2025 年度活動方針について、報告の通り承認されました。
- 6) 2025 年度予算について、報告の通り承認されました。

7) 報告：役員選挙予告・選挙管理委員委嘱について、各地方部会から以下の5名の方に選挙管理委員を委嘱しました。

金鎔基（北海道部会）、山村りつ（関東部会）、浅野和也（東海部会）、瀬野陸見（関西部会）、崔銀珠（中国四国部会）

8) 大会若手研究者優秀賞発表・表彰

山村りつ選考委員長より、以下の通り報告があり、授賞式を執り行いました。

受賞者：権明

受賞作：「中国におけるケアの再家族化に関する再検討：ダブルケアの視点に基づいて」

9) 今年度、永年会員となられたのは以下の6名の方です。

河合克義、川東英子、川人博、木村周市朗、木本喜美子、玉井金五（敬称略）

10) 日本学術会議法案に関する総会決議について、社会政策学会第150回大会総会として「日本学術会議法案の衆議院採決に抗議し、参議院での廃案を求める社会政策学会総会決議」を承認しました。

11) 次回大会開催校からのご挨拶

2025 年 10 月 25 日（土）・26 日（日）
関西学院大学上ヶ原キャンパス

次回開催校関西学院大学の西村智会員より、宿泊先確保に関する情報提供を含めて案内がありました。

議題 4) 2024 年度決算・監査報告

社会政策学会 2024 年度決算書（案）

経常会計

【収入の部】

項 目	① 24 年度 予算	② 24 年度 決算（案）	差 額 （②－①）	備 考
会費収入	9,344,000	10,138,000	794,000	会費納入状況 92.9%（1019 人／1097 人）永年会員 72 名は会費請求なし
大会参加費	1,300,000	1,392,500	92,500	148 回・149 回
大会広告・出展料	200,000	215,000	15,000	148 回・149 回
学会誌還元金	200,000	250,000	50,000	学会誌第 15 巻第 2～3 号
雑収入	20,000	84,832	64,832	学会誌販売・利息
その他入金	0	221,363	221,363	全国大会の剰余金、大会開催への助成金
当期収入合計	11,064,000	12,301,695	1,237,695	
前年度繰入金	16,304,514	16,304,514		うち定期預金 10,000,000 円

収入合計	27,368,514	28,606,209		
【支出の部】				
項 目	① 24 年度 予算	② 24 年度 決算(案)	差 額 (①－②)	備 考
大会開催費	3,600,000	3,414,574	185,426	148 回・149 回
春季大会	1,500,000	1,500,000	0	
秋季大会	1,500,000	1,500,000	0	
企画委員会活動費等	600,000	414,574	185,426	フルペーパーアップロード、共通論題報告非会員招聘費用、会合旅費
春季大会企画委員会活動費	300,000	84,200	215,800	
秋季大会企画委員会活動費	300,000	330,374	△ 30,374	
旅費	400,000	47,100	352,900	
部会活動費	700,000	168,709	531,291	
学会誌発行費	3,950,000	4,664,215	△ 714,215	学会誌第 16 巻第 1～4 号
学会誌代金	1,500,000	1,500,000	0	学会誌第 16 巻第 1 号、第 2・3・4 号(合併号)
編集作業経費	1,380,000	2,400,000	△ 1,020,000	学会誌編集委員会業務委託
オンライン作業経費	820,000	641,300	178,700	オンライン投稿・査読システム
ネイティブチェック代・謝金等	120,000	70,915	49,085	英文校閲
学会誌発送等	30,000	22,000	8,000	宛名ラベル
編集委員会活動費	100,000	30,000	70,000	査読謝礼、非会員原稿料
学会賞関係費	660,000	589,171	70,829	
記念品代等	80,000	29,614	50,386	賞状・副賞
審査員図書費等	300,000	315,527	△ 15,527	図書費
旅費	200,000	164,830	35,170	学会賞関連旅費
書籍検索費	80,000	79,200	800	書籍検索システム
国際交流関連費	1,000,000	703,564	296,436	LERA 年次大会登録費用、149 回非会員招聘費用、国際学会報告旅費
若手支援経費	500,000	123,327	376,673	
若手研究者優秀賞関係	60,000	25,701	34,299	
その他若手支援経費	440,000	97,626	342,374	若手報告者支援
広報関連費	700,000	464,358	235,642	
ウェブサイト管理・構築費	300,000	106,912	193,088	学会サイト管理費(日本語版・英語版)
英文ニューズレター関連費	400,000	357,446	42,554	JASPSBulletinNo.13～15
名簿関連費	70,000	121,000	△ 51,000	会員検索モジュール
内外諸学会分担金	150,000	105,000	45,000	日本経済学会連合、社会政策関連学会協議会、日本学術協力財団
本部経費	2,070,000	2,059,256	10,744	
幹事会費	50,000	68,993	△ 18,993	
学会事務委託費	1,600,000	1,556,563	43,437	会員管理業務
ニューズレター制作費	50,000	38,500	11,500	ニューズレター No.118～120
その他事務経費	370,000	395,200	△ 25,200	請求書発送印刷費、振込手数料、クレジット決済手数料等含む
学会活性化経費	500,000	171,000	329,000	研究者育成フォーラム
予備費	250,000	0	250,000	
当期支出合計	14,550,000	12,631,274	1,918,726	
次年度繰越金	12,818,514	15,974,935	△ 3,156,421	うち定期預金 10,000,000 円
合計	27,368,514	28,606,209		

2025 年 3 月 31 日現在会員数 1,169 名(永年会員 72 名、一般会員 879 名、割引会員 211 名、海外会員 7 名)

※ 2024 年度未除名対象 19 名

社会政策学会 2024 年度決算書（案）

特別会計

【収入の部】

項 目	① 24 年度 予算	② 24 年度 決算（案）	差額 （②－①）
積立金（経常会計からの繰入金）	0	0	0
利子収入	0	5,752	5,752
当期収入合計	0	5,752	5,752
前年度繰入金	13,222,516	13,222,516	0
収入合計	13,222,516	13,228,268	5,752

【支出の部】

項 目	① 24 年度 予算	② 24 年度 決算（案）	差額 （①－②）
取崩金（経常会計への繰入金）	0	0	0
当期支出合計	0	0	0
次年度繰越金	13,222,516	13,228,268	△ 5,752
合計	13,222,516	13,228,268	△ 5,752

社会政策学会 2024 年度監査報告書

財産目録

2025 年 3 月 31 日現在会員数 1,169 名（（永年会員 72 名、一般会員 879 名、割引会員 211 名、海外会員 7 名）
※ 2024 年度末除名対象 19 名

資 産	2025 年 3 月 31 日現在（円）
銀行口座 1（経常会計 みずほ普通預金）	17,162
銀行口座 2（特別会計）	13,228,268
銀行口座 3（定期預金）	10,000,000
銀行口座 4（経常会計 ゆうちょ振替口座）	233,494
銀行口座 5（経常会計 ゆうちょ総合口座）	9,050,029
合 計	32,528,953

負債の部（未払費用） 経常会計	3,267,730	※学会誌第 16 巻第 2・3・4 号（合併号）、部会活動費、編集委員会業務委託費、書籍検索システム
負債の部（前受会費） 経常会計	67,000	※ 2025 ～ 2026 年度会費
負債の部（前受金） 経常会計	159,520	※ 2025 ～ 2026 年度購読費・150 回大会入金
負債の部（預り金） 経常会計	10,000	※返金処理中
資産の部（前払金） 経常会計	5,500	※ 150 回大会費用
資産の部（未収会費） 経常会計	173,000	※入金予定会費
総合計	29,203,203	

上記のとおり相違ありません

2025 年 5 月 7 日

菅沼 隆



会計監査の結果、上記のとおり相違ありません

2025 年 5 月 7 日

会計監査

石井 まこと



議題 6) 2025 年度予算

社会政策学会 2025 年度予算 (案)

経常会計

【収入の部】

項 目	① 25 年度 予算	② 24 年度 予算	差額 (①－②)	備 考	24 年度 決算 (案)
会費収入	0	9,344,000	△ 9,344,000		10,138,000
大会参加費	1,300,000	1,300,000	0		1,392,500
大会広告・出展料	200,000	200,000	0		215,000
学会誌還元金	0	200,000	△ 200,000	ミネルヴァ書房との契約変更により廃止	250,000
雑収入	20,000	20,000	0		84,832
その他入金	0	0	0		221,363
当期収入合計	1,520,000	11,064,000	△ 9,544,000		12,301,695
前年度繰入金	15,974,935	16,304,514	△ 329,579	うち定期預金 10,000,000 円	16,304,514
収入合計	17,494,935	27,368,514	△ 9,873,579		28,606,209

【支出の部】

項 目	① 25 年度 予算	② 24 年度 予算	差額 (①－②)	備 考	24 年度 決算 (案)
大会開催費	3,600,000	3,600,000	0		3,414,574
春季大会	1,500,000	1,500,000	0		1,500,000
秋季大会	1,500,000	1,500,000	0		1,500,000
企画委員会活動費等	600,000	600,000	0	フルペーパーのアップロード, 配布資料印刷, 要約筆記	414,574
春季大会企画委員会活動費	300,000	300,000	0		84,200
秋季大会企画委員会活動費	300,000	300,000	0		330,374
旅費	400,000	400,000	0		47,100
部会活動費	700,000	700,000	0		168,709
学会誌発行費	4,970,000	3,950,000	1,020,000	ミネルヴァ書房との契約を変更	4,664,215
学会誌代金	1,500,000	1,500,000	0	学会誌第 17 巻第 1～4 号	1,500,000
編集作業経費	2,400,000	1,380,000	1,020,000	学会誌編集委員会業務委託	2,400,000
オンライン作業経費	820,000	820,000	0	オンライン投稿・査読システム	641,300
ネイティブチェック代・謝金等	120,000	120,000	0	英文校閲	70,915
学会誌発送等	30,000	30,000	0	宛名ラベル・編集委員会事務委託	22,000
編集委員会活動費	100,000	100,000	0		30,000
選挙関連費	300,000	0	300,000		0
学会賞関係費	720,000	660,000	60,000		589,171
記念品代等	80,000	80,000	0	賞状・副賞	29,614
審査員図書費等	360,000	300,000	60,000	図書費	315,527
旅費	200,000	200,000	0	学会賞関連旅費	164,830
書籍検索費	80,000	80,000	0		79,200
国際交流関連費	1,000,000	1,000,000	0	招聘費、通訳補助、学会参加費補助等	703,564
若手支援経費	600,000	500,000	100,000		123,327
若手研究者優秀賞関係	60,000	60,000	0		25,701
その他若手支援経費	340,000	440,000	△ 100,000	若手の旅費支援、懇親会招待等 2 大会分	97,626
研究者育成フォーラム	200,000	0	200,000		0
広報関連費	2,200,000	700,000	1,500,000		464,358
ウェブサイト管理・構築費	300,000	300,000	0	月次ホスティング, ドメイン管理	106,912

英文ニューズレター関連費	400,000	400,000	0		357,446
学会 HP リニューアル	1,500,000	0	1,500,000		0
名簿関連費	70,000	70,000	0	会員検索モジュール関連費	121,000
内外諸学会分担金	100,000	150,000	△ 50,000	日本経済学会連合、社会政策関連学会協議会	105,000
本部経費	2,350,000	2,070,000	280,000		2,059,256
幹事会費	50,000	50,000	0		68,993
学会事務委託費	1,800,000	1,600,000	200,000		1,556,563
ニューズレター制作費	50,000	50,000	0		38,500
その他事務経費	450,000	370,000	80,000	請求書発送印刷費、振込手数料、クレジット決済手数料等	395,200
学会活性化経費	0	500,000	△ 500,000		171,000
過年度経費	0	0	0		0
予備費	250,000	250,000	0		0
当期支出合計	17,260,000	14,550,000	2,710,000		12,631,274
次年度繰越金	234,935	12,818,514	△ 12,583,579	うち定期預金 10,000,000 円	15,974,935
合計	17,494,935	27,368,514	△ 9,873,579		28,606,209

2025 年 3 月 31 日現在会員数 1,169 名（永年会員 72 名、一般会員 879 名、割引会員 211 名、海外会員 7 名）
※ 2024 年度末除名対象 19 名

社会政策学会 2025 年度予算（案）

特別会計

【収入の部】

項 目	① 25 年度 予算	② 24 年度 予算	差額 (①－②)	24 年度 決算（案）
積立金（経常会計からの繰入金）	0	0	0	0
利子収入	0	0	0	5,752
当期収入合計	0	0	0	5,752
前年度繰入金	13,228,268	13,222,516	5,752	13,222,516
収入合計	13,228,268	13,222,516	5,752	13,228,268

【支出の部】

項目	① 25 年度 予算	② 24 年度 予算	差額 (①－②)	24 年度 決算（案）
取崩金（経常会計への繰入金）	0	0	0	0
当期支出合計	0	0	0	0
次年度繰越金	13,228,268	13,222,516	5,752	13,228,268
合計	13,228,268	13,222,516	5,752	13,228,268

.....

3. 第 150 回（2025 年度春季）大会若手研究者優秀賞選考報告

1. 選考の経緯

・第 1 回選考委員会

選考委員は小澤裕香、松永伸太郎、山村りつ、米澤旦の 4 名。選考対象者リストを確認し、今後の選考日程

と手順を決定した。また、選考委員長に山村を互選した。

・第 2 回選考委員会（4 月 30 日：メール審議）

締め切りまでに提出された 14 本のフルペーパーを対象に一次選考を行い、うち 5 本（うち 3 本は補欠）を選考した。うち 2 本は最終選考へ進めるものとし、補欠 3 本について最終選考へ残すかどうかの審議を次回委員会で行うこととした。

・第3回選考委員会（5月10日：オンライン会議）

二次選考として補欠3本の選考を行い、うち1本を最終選考に残すものとした。その後、最終選考に進めた2本に補欠からの1本を加えて、3本で最終選考を行い、優秀賞授与者を決定した。

・第4回選考委員会（5月14日：メール審議）

選考報告書を決定した。

2. 選考の結果（受賞作）

権明「中国におけるケアの再家族化に関する再検討：ダブルケアの視点に基づいて」

3. 選考の理由

本報告は中国で行われた大規模調査によるパネルデータを用いて、現在の中国の中老年女性が自らの親と孫のダブルケアに晒されている実態を浮き彫りにした実証性の高い調査研究である。その前提として、適切な分析枠組みや調査手法および丁寧な分析、目的から考察まで一貫した記述によって信頼性と妥当性を高めた、論文としても非常に質の高いものであると評価した。

ダブルケアは日本でも大きな関心事となり、近年その議論や研究が数多くみられる。中国においても、ケアのあり方やそれに関わるジェンダー的構造についての議論は多く、「再家族化・再ジェンダー化」などの指摘がされてきたが、一方で理論的な議論が先行し、家族内ケア責任の内実に迫るような研究は少ない。本研究は上記パネルデータの2011年と2018年のデータを用いることで、現在の中老年女性が担うダブルケアの実状だけでなく、その進展および変化の状況および都市と農村における変化の違いなどを明らかにし、中国においてケアの「再家族化」が起きている状況を実証的に示している。本研究は中国についてのものであるが、本研究の結果やその分析枠組みは、日本など、他の国や社会におけるダブルケアおよび家族内ケア役割についての調査研究においても示唆を提供するものだろう。

なお、優秀賞授与者の決定にあたり、本人の過去の論文との異同を確認した。特に、2024年に社会政策学会誌に掲載された本人による投稿論文と類似している点について委員より指摘があったが、本フルペーパー内で2024年論文の位置づけが明記されており、また異なる結論が導き出されていることなどから問題ないと判断し、

本報告フルペーパーを優秀賞受賞作として選出した。

また、「再家族化」の定義および本報告の調査結果との関連付けについて説明が不十分ではないかとの指摘もあった。これについては、今後の研究において検討・精緻化されることを期待するものである。

（選考委員長：山村りつ）

4. 2024-2026 年幹事会報告

第6回幹事会

日時：4月11日（金）19:00～21:30

開催方法：オンライン

出席：菅沼隆、居神浩、大津唯、鬼丸朋子、垣田裕介、
禿あや美、金成垣、熊沢透、駒川智子、櫻井純理、
志賀信夫、杉田菜穂、田中聡子、松本伊智朗、水野
有香、百瀬優、森詩恵、山崎憲、山根純佳、吉村臨
兵、米澤旦、中尾友紀

欠席：阿部彩、榎一江、小澤裕香、角能、金井郁、藤
原千沙

議題：

1. 事務局から

1) 新入会員の承認

入会申込者14名、一般会員から割引会員への会員
区分変更2名、退会者12名を承認。

2) ガリレオと「個人情報保全管理費」を調印した。

3) フルペーパーの「取り扱い」と若手賞選考基準の
解釈について、若手賞受賞論文を学会誌に掲載する条
件を削除したため、各大会では相対的に最も水準の高
いフルペーパーを表彰する。しかし、研究倫理は遵守さ
れていなければならないため、最終審査に残った論文
について、可能な範囲で選考委員会が研究倫理に抵触
していないかをチェックする。

4) 役員選挙について、5月の幹事会までに選挙管理
委員会を選出し、委員長を互選する。被選挙人名簿は
7月31日現在で作成する。その後、選挙スケジュール
を周知し、推薦を受け付ける。9月上旬に公示し、10
月5日に投票を締め切り、7日に開票する。

5) 学会賞選考委員規程にある「重任」の解釈について、
第7条に「選考委員の任期は2年とし、重任しないもの
とする」とあるが、時間を置いて再任することが認めら
れるか。慣例では半数の中堅・若手は過去に受賞歴が

ある人であるが、受賞者が少なく特定の領域に偏らないように委嘱することが困難。このため、できる限り重任を避けるが、困難な場合は再任もあることを承認。

6) 地方部会名簿について、毎年度、事務局からガリレオに抽出を依頼し、5月の大会時に地方部会の世話人に名簿を渡せるようにする。

7) 共通論題のオンライン配信について、都立大学では配信するが、今後の開催校では配信に対応できない大学もあるため、配信を義務にしないことを確認。

8) 非会員の招聘の費用負担について、交通費、宿泊費、謝金は各担当委員会（＝共通論題は各企画委員会、国際交流委員会企画は同委員会、部会企画は部会補助金の範囲内）、懇親会費は各担当委員会または自費、執筆謝金は編集委員会とすることを確認。

9) 日本学術会議法改正について動向が報告された。

2. 各委員会から

1) 春季企画委員会

春季大会の準備状況を報告。

2) 秋季企画委員会

秋季大会の準備状況を報告。共通論題の座長を2名とし、報告者4名をすべて会員として決定。6月7日にHPで募集記事を掲載。7月の幹事会で採択を決定。9月18日～25日にフルペーパー提出とする。

3) 編集委員会

執筆要領を見直したい。執筆要領の変更については、幹事会で報告、決定後に総会で報告する。また、学会誌のJ-Stageでの公開について、15巻までは2年ルールが適用されているため、公開に至っていないものがある。

4) 広報委員会

HPリニューアルについて、Smart Style Complexと契約したい。140万円（税込み）で、保守に毎年度30万3,600円（税込み）必要となる。更新代行、保守・運用に関する管理費を付けている。7月の幹事会で承認後、リリースする予定。

5) 若手支援委員会

春季大会における優秀賞対象フルペーパーは15本。選考委員は、米澤亘、小澤裕香、松永伸太郎、山村りつの4名に依頼し、内諾を受けている。修論フォーラムの申込者は9名（辞退者1名あり）。

6) 地方部会担当

広報委員会に対して、地方部会の担当交代についてHPを更新して欲しい。併せて、HP上の表記について、「責任者」を「世話人」、「副責任者」を「副チーフ」として欲しい。

地方部会開催状況について報告。春季大会では、2日目昼に地方部会の世話人会を開催する予定。

7) 専門部会担当

活動費のガイドラインについて各専門部会から意見聴取したため、次回幹事会で報告する。内規について各専門部会に確認している。

8) 関連学会協議会

日本学術会議法案が審議されている。日本学術会議から何らかのアクションを出して欲しいという依頼があるかもしれない。それを待って動くこととしたい。

9) ニュースレター担当

5月の春季大会後に1号発行し、秋季大会の開催予告、報告募集、役員選挙のお知らせをしたい。そこに2025年度（第150回大会）総会報告、2024年度活動報告と2025年度活動方針を掲載する。専門部会、地方部会の2024年度活動報告は、7月発行の号に掲載する。

10) その他

国際交流委員会企画としての中国との基幹交流事業による招聘にかかる宿泊費の上限を特例として5万円とすることを承認した。予備費から支出。

3. 総会関係

総会開催に関する会則の改正と若手支援委員会規程の新設を行う。2024年度活動報告と2025年度活動方針及び予算案への意見を聴取し、次回幹事会で確認する。

（中尾友紀）

第7回幹事会

日時：5月16日（金）14：00～17：30

場所：立教大学12号館経済学部第1～3共同研究室
及びオンライン

出席：菅沼隆、大津唯、垣田裕介、角能、金井郁、金成垣、熊沢透、駒川智子、櫻井純理、志賀信夫、杉田葉穂、田中聡子、水野有香、百瀬優、森詩恵、藤原千沙、山崎憲、山根純佳、吉村臨兵、米澤旦、中尾友紀

欠席：阿部彩、居神浩、榎一江、鬼丸朋子、小澤裕香、

禿あや美、松本伊智朗

議題：

1. 事務局から

1) 新入会員の承認

入会申込者 13 名、一般会員から割引会員への会員区分変更 2 名、退会者 21 名を承認。

2) 総会の議案書について内容を確認した。

3) 幹事会議事録の取り扱いについて、議事と異なる場合は修正するが、議事の結果に関する意見は次の幹事会で協議し、修正することとしたい。これに関連して、第 6 回幹事会議事録の一部を修正した。また、自己剽窃について、倫理綱領第 8 条を修正する。

4) 共通論題のオンライン配信について、オンライン配信が望ましいが、義務とはせず、開催校の事情を考慮することとした。今後、配信の範囲等についてさらに検討する。

5) 選挙管理委員について、北海道部会から金鎔基、関東部会から山村りつ、東海部会から浅野和也、中国四国部会から崔銀珠、関西部会から瀬野睦見の各氏を選出した。

6) 年度明けの発送となった『社会政策』16 巻 2・3・4 合併号の発送先について、2024 年度会費納入退会者にも送付する。この件に関する説明文を HP に掲載する。

7) 政治経済学・経済史学会大会の申し入れについて、「共催」から「協賛」に変更する。

8) その他として、7 月幹事会日程を検討した。

2. 各委員会から

1) 編集委員会

執筆要領の見直しについて、総会で周知したい。英語文献について、「英語文献の表題、雑誌名、書名、出版社名等は、文頭を大文字とし、それ以外では冠詞、前置詞、接続詞を除くすべての単語の 1 文字目を大文字とする。」を追記した。

市販終了に伴い、受け入れ継続希望図書館には寄贈することについて、140 館に問い合わせ、62 館から継続希望の連絡があった。

次の委員会で、特集論文（共通論題）の依頼原稿の提出が遅れた場合の対応について審議する。

2) 国際交流委員会

第 150 回大会ではテーマ別分科会で中国と交流する。

また、別のテーマ別分科会では、海外研究者招聘助成事業で採択された 1 件の報告がある。

3) 広報委員会

HP リニューアルに関連して、大会・部会の過去の情報についてはアーカイブに移動して残す。今後、HP 本体には何年分を残すか検討する。

新しい HP は 7 月末リリース予定。JASPS Bulletin 15 号の特集論文は英訳を終了した。英文プログラムが届き次第公開する。

4) 若手研究者支援委員会

若手研究者優秀賞選考について、同委員会選考委員長から報告があった。

若手研究者の懇親会参加について、対象者等のスキームを確認した。

5) 地方部会担当

名簿について、全会員のメールアドレスが入っているため、見ることができる人の範囲を限定すること。

6) 専門部会担当

補助金支出ガイドラインについて、世話人会の意見を聴取して追加修正した。

7) ニュースレター担当

次号目次を確認した。122 号には、第 150 回大会総会報告、2024 年度活動報告、2025 年度活動方針、幹事会報告、役員選挙のお知らせを掲載する。

8) 日本学術会議法案について

社会政策学会で独自に総会決議をしたいがどうか。たたき台を作成した。幹事会声明では修正を求めたが、今回は参議院での廃案を求めるとした。原案を議案書に挿入し、総会に諮ることとする。

9) その他

訃報について、幹事経験者や永年会員が亡くなった場合は掲載する等、ニュースレター掲載についてルールが必要なのではないか。坂東先生の訃報をニュースレターに掲載する。
(中尾友紀)

5. 役員選挙のお知らせ

*投票期間：9 月 4 日（木）～10 月 9 日（木）17：00

*推薦文受付期間：本ニュースレター発行日～8 月 21 日（木）17：00

今年は、学会役員選挙が行われます。今回の選挙で

は、2026 年春季大会にて開催される総会から 2028 年春季大会にて開催される総会までを任期として、本会の重要事項を審議する幹事と会計監査を選出します。その選挙を実施するため、幹事会から次の 5 名が選挙管理委員に委嘱されました（「役員選挙に関する規程」第 3 条）。

東北・北海道ブロック	金鎔基
関東・甲信越ブロック	山村りつ
東海ブロック	浅野和也
関西・北陸ブロック	瀬野陸見
九州・中国四国ブロック	崔銀珠

上記 5 名の互選により瀬野陸見を選挙管理委員長に選出し、選挙管理委員会は選挙日程と選挙に関する手続きを以下のように決定しました。

1. 選挙公示日

2025 年 9 月 4 日（木）

2. 選挙の方法

有権者の資格は、前回と同様の基準による扱いとする。すなわち「2023 年度までに入会されている会員については 2022 年度までの会費が納入されていること、2024 年度以降に入会された会員については入会年度の会費が納入されていること」とする。

選挙管理委員会は、選挙公示に際し、有権者名簿、推薦文等の関係書類を全有権者に公開する。

投票は、有権者によるオンライン投票によって行い、投票の締め切り日時を 2025 年 10 月 9 日（木）17:00 とする。

3. 開票日・開票場所

2025 年 10 月 10 日（金）に、本学会の事務センターがある(株)ガリレオにて開票する。

4. 選挙結果の発表

2025 年 10 月 24 日（土）・25 日（日）に開催される社会政策学会第 151 回（2025 年度秋季）大会（会場：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス）大会で報告し、大会終了後に発行するニューズレターに掲載する。

5. 役員の選出に関する推薦文

「役員選挙に関する規程」第 7 条により、役員選出のために会員を推薦することを希望する会員は、以下の要領で推薦文を全有権者に配布することができる。

1) 賛同する会員 5 名以上の氏名を含む推薦文（5 名以上の氏名を含めて 600 字以内）のテキストファイルを 8 月 21 日（木）17:00 までに、seno@hannan-u.ac.jp（瀬野陸見）宛に E-mail で送る。

※発信者は、推薦文に「賛同する会員」として記入した推薦者（全員）のアドレスを Cc に入れて発信してください。

2) 選挙管理委員会は、推薦文を全有権者に公開する。

6. 地方ブロックの所属

1) 「社会政策学会会則」第 43 条の規定によれば、会員は主な勤務先または通学先の所在地、それがいない場合は居住地によって地方部会に所属する。被選挙人名簿は、2025 年 7 月 31 日時点で学会に届けられている勤務地等に則して作成する。

2) 「社会政策学会会則」第 43 条によれば、海外在住者はその所属する地方部会を選択し代表幹事に届け出た時、その地方部会に所属する。届け出のない海外在住者は、地方ブロックに所属しない会員として取り扱う。地方ブロックに所属しない会員は、幹事としての被選挙権を有しない。なお、選挙権および会計監査としての被選挙権は有する。

7. 幹事・会計監査の被選挙権を有しない会員

1) 「社会政策学会会則」第 10 条の規定によれば、永年会員は、幹事および会計監査の被選挙権を有しない。

2) 「社会政策学会会則」第 14 条の規定によれば、幹事は、連続 3 期を限度としている。

3) 「社会政策学会会則」第 18 条の規定によれば、会計監査は、連続 3 期を限度としている。

4) 「社会政策学会会則」第 24 条の規定によれば、顧問は、幹事および会計監査の被選挙権を有せず、また、兼務することができない。

役員選挙は、会員の意思を学会運営に反映させることのできる最も重要かつ基本的な機会です。積極的なご参画をお願いいたします。

（選挙管理委員長；瀬野陸見）

6. 承認された新入会員

2025 年 4 月幹事会承認（14 名）

佐々木 宏	北海道大学大学院教育学研究院准教授	社会保障・社会福祉
柴田 大樹	大阪公立大学大学院都市経営研究科附属都市経営研究センター研究員	社会保障・社会福祉
石岡 まどか	大阪大学人間科学研究科未来共生学講座・共生の人間学大学院生	社会保障・社会福祉
鷺見 佳宏	大阪公立大学大学院都市経営研究科都市経営専攻博士後期課程大学院生	その他（都市経営）
八井 良汰	一橋大学大学院社会学研究科総合社会学専攻大学院生	社会保障・社会福祉
平 将志	九州産業大学経済学部経済学科講師	社会保障・社会福祉／労働史・労働運動史
木村 多佳子	福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科助教	社会保障・社会福祉
田中 武士	津市立三重短期大学生活科学科准教授	社会保障・社会福祉／その他（臨床倫理学）
原 一将	札幌国際大学スポーツ人間学部スポーツビジネス学科教授	その他（キャリア教育／産業教育）
安 明希	北海道大学大学院教育学院教育心理学講座発達心理学研究室大学院生	社会保障・社会福祉／ジェンダー・女性／生活・家族
張 瑜淳	京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻社会学専修博士後期課程大学院生	社会保障・社会福祉／生活・家族
岡本 愛香	北海道大学大学院教育学院教育学専攻大学院生	社会保障・社会福祉／生活・家族
大西 香世	清和大学法学部法律学科教授	ジェンダー・女性
橋本 周哉	高槻市健康福祉部福祉指導課	社会保障・社会福祉

2025 年 5 月幹事会承認（13 名）

松本 彩月	四日市大学総合政策学部特任助教	社会保障・社会福祉
速水 亜矢子	岐阜県立看護大学地域基礎看護学領域講師	社会保障・社会福祉
伊丹 謙太郎	法政大学公共政策研究科教授	社会保障・社会福祉／労働史・労働運動史／その他（協同組合運動史）
朴 東民	茨城キリスト教大学生活科学部心理福祉学科助教	社会保障・社会福祉／生活・家族／その他（子ども家庭福祉）
後藤 広史	立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科教授	社会保障・社会福祉
池本 修悟	法政大学大学院公共政策研究科連帯社会インスティテュート教授	社会保障・社会福祉
酒井 三枝子	NPO 法人「航空の安全・いのちと人権を守る会」理事長	労使関係・労働経済／ジェンダー・女性
斉藤 裕哉	東京大学社会科学研究所特任研究員（学術振興会特別研究員（PD））	ジェンダー・女性／生活・家族
加峯 奈々	福岡看護大学看護学部看護学科助教	生活・家族／その他（ひとり親家庭の支援）
渡邊 弘	法政大学大学院公共政策研究科連帯社会インスティテュート労働組合プログラム大学院生	労使関係・労働経済
柳 姓希	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科講師	ジェンダー・女性
西川 貴清		社会保障・社会福祉
鎌谷 勇宏	大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科准教授	社会保障・社会福祉

7. 顧問の逝去

本学会顧問で、元代表幹事の玉井金五先生が7月1日にご逝去されました。ご冥福をお祈りするとともに、謹んでお知らせいたします。
(2024-2026 年代表幹事 菅沼 隆)